

ネブラスカ州：小麦作柄と気象状況

2004年8月10日(最終)

2004年8月8日現在：

ネブラスカ州の2004年産冬小麦の収穫は、8月8日迄に全州にて完了した。昨年及び5年平均(平年)より多少遅れての終了であった。

2004年産冬小麦の概況(纏め)：

冬小麦の播種は、平年と略同時期の2003年8月終わりから開始された(8月31日時点で2%完了。2003年産並びに5年平均並の進捗であった)。

播種が全州にて完了したのは、10月26日の週であり、これは2003年産の完了より多少早い概ね平年並み出であった。10月26日現在の出芽状況は、平年と同様96%出であった(2003年産では同時期出芽率95%であった)。土壌水分はNW地区では多少乾燥気味であったが、例年と大差は無かった。

2003年11月の始めの低温・乾燥気象が出芽を平年より多少遅らせる結果となったが、11月9日までに全州の圃場に出芽した。小麦が休眠に入る前に、十分な根の発育を遂げることは小麦の耐寒上重要なことであり、その為には土壌水分が必要である。西部地方では土壌水分が不足気味であったことより、根の発育が心配された。

2004年1月は、例年より気温は低かったが降雪量は少なく旱魃状態に近かった。

1月末のsnow coverは、州東部では0~9.0インチで、州平均4.9インチと報告された。この時点では小麦の状態は昨年より多少良好と云われた。

2月中の気温は平年以下で推移したが、降雪は少なかった。州平均の深雪度は0.40インチであった。春からの小麦の生育が心配された。

3月の気温は平年を上回り、3月末の土壌温度は平年より10度Fも高く小麦は休眠から覚めGreen upを開始した。4月11日には冬小麦の8%が節間伸張に入った(昨年：1%、例年：2%)。4月中旬まで平原での降雨は極端に少なかったが、4月下旬になり各地に大雨が有り土壌水分を改善した。但し、subsoilの水分は不足状態であった。5月に入ってから州北西地区(Panhandle)から中央地区、南西地区の降雨は少なく、小麦にストレスが見られえた。土壌水分は昨年並びに過去5年平均(平年)より悪く、小麦の作柄も悪いと報告された。乾燥気象・高温の結果小麦は例年より早く生殖成長に入った。5月9日の段階で全体の3%の小麦が出穂した(昨年より1週間早い)。

5月中旬に気温は下がり、湿潤な気象となったが、小麦は38%が出穂した。昨年同期では7%、5年平均では13%の出穂であった。

USDAの5月1日の収量予想では、単位収量は39.0ブッシェル・エーカー(昨年実績：46.0ブッシェル)であった。

その後5月末まで部分的に降雨があったが気温は高く、小麦の生殖成長を早めた。5月30日現在67%が出穂(昨年：27%、平年39%)し、11%の小麦が登熟期に入った。NW地区は降雨が無く土壌の乾燥が激しくなった。

6月になり気温は急激に上昇し、連日90度の後半から100度以上を記録した。州西部には降雨は殆ど無かった。小麦は急速に登熟した。6月13日現在、小麦は全州で出穂を完了し、56%が登熟後期となった(昨年：20%、5年平均：32%)。

6月1日のUSDA収量予想は、単位収量35.0ブッシェルとなった。

Panhandleの降雨量は少なく、4月1日から6月20日迄の降水量は平年の65%

と報告された。この段階で全州の小麦の14%が完熟(昨年:1%、5年平均:2%)し、南部では収穫が開始された。7月になり気温が平年を下回り、降雨が続いた。完熟した小麦は全体の58%、この時点で収穫は25%であった。

7月初旬の天候は悪く、小麦の完熟のペースは落ち、収穫作業のペースも落ちた。更に、圃場での穂発芽が心配されだした。

USDAの7月1日の収量予想は6月1日予想より落ち、32.0ブッシェルとなった。7月中旬になり気象は回復し、気温が上昇小麦は完熟に向かった。7月18日の段階で収穫は全体の65%(昨年:73%、5年平均:78%)であり、昨年並びに平年より遅れた。8月1日までに冬小麦は97%が収穫された。昨年並びに5年平均では同時期には98%完了であり、7月初旬の天候不順は小麦の収穫完了を例年より遅らせる結果となった。

8月8日に全州にて収穫完了が報告された。

品質予想:

州西部地方を中心に6月下旬迄続いた乾燥状態により、小麦の成熟を早め、その後完熟時に入ってから連続した降雨は、収穫を遅らせる結果となった。小麦粒の粒張りは良くなく地区により高蛋白質となろうが容積重は低く、異物が多いものと予想される。FN値が低く被害粒の多い小麦の発生も予想された。

生産量予想:

ネブラスカ州の2004年産冬小麦は、冬季の乾燥、3月の気温上昇による早めのGreen up、Panhandleを中心に西部地方の5月中旬の出穂最盛期から6月中頃の登熟期の乾燥・高温等より、株当たりの穂の数が少なく、7月1日のUSDA発表では1平方フィート当たりの穂数は43.0本で、1996年以来最低の数値であった。単位収量予想は、昨年実績より14ブッシェル少ない32.0ブッシェル/エーカーであった。これは1992年の30ブッシェルに次ぐ低い数値である。

作付け面積と収穫面積:

	Area Planted			Area Harvested			04/03
	2002	2003	2004	2002	2003	2004*	
Unit	1,000 acres			1,000 acres			Percent
Nebraska	1,650	1,900	1,950	1,520	1,820	1,800	98.9%

2004年7月1日付け農務省発表冬小麦生産量予想:

Crop year	Area Harvested		Yield			Production	
	1,000 acres		bushels/acre			1,000 bushels	
	2003	2004	2003	2004		2003	2004
				June 1	July 1		
Nebraska	1,820	1,800	46.0	35.0	32.0	83,720	57,600
US Total	34,541	34,825	46.7	43.6	42.2	1,707,069	1,469,735

2004年産作冬小麦付け品種:

2004年産冬小麦で最も作付けされた品種は、Alliance(全作付け面積の13.6%、昨年:11.5%)であり、2位はMillennium(11.1%、昨年:6.1%で6位)、続いてPronghorn(10.4%)、2137(7.8%)、5位がArapahoe(6.8%)であった。NE地区をのみを見るとAllianceが第1位で22.6%、2位がPronghorn(20.3%)、

Millennium (12.0%)となっている。Millenniumは2001年産より作付けが開始された新しい品種である。

硬質白色冬小麦 (Hard White Winter Wheat) は多少昨年より減少し、全体の1.7% (昨年:2.0%)に止まった。中心品類はPlatteでHWWの75%を占め、続きTrego、NuPainsであった。HWWの作付けではNebraska Wheat Boardが生産者への資金援助を行っている。

Alliance: 草丈は中位。早熟品種。Winter hardiness (耐寒性有り)。製粉・製パン適正が良い。Arkon、Coltの交配及びChisholmの系統を取り入れ、USDA-ARS/Nebraskaにより開発された。

Millennium: 草丈は中庸。熟期も中間。ネブラスカの乾燥地帯に適した新種。高単位収量、耐寒性に優れ、分けつ勢が良い。耐Hessian Fly。蛋白質含有量は中庸であるが、製パン加工適性が良い。Nebraska/USDA-ARSの共同開発品種。

Pronghorn: 草丈は高い。分けつ勢が非常に良い。Panhandle等の乾燥地帯向けで、乾燥地で単収良い。高容積重、製粉・製パン適正が良い。

Centura/Dawn/Coltの交配育種。Nebraska/USDA-ARSの共同開発品種。

以上

当該作柄レポートに関するご質問等は下記までにお問い合わせ致します。

小川正晃 : Email ogawa.max@omicnet.com